雨中を疾走 感動ゴール

完走 仲間や家族と笑顔

TOUR DE NOTO 400

第23回「ツール・ド・のと400」能登半島一周サバイバル・サイクル2011」（同実行委、県自転車競技連盟、北國新聞社主催）は最終日の19日、七尾市を出発した695人が水見市などを経由してゴールの内灘町を目指した。それぞれの思いを胸に雨中を走り抜け、完走を果たした出場者は仲間や家族と笑顔を並べた。

ツール・ド・のと最終日

121・7㌔のコースが設けられたこの日は初日と同様、雨となった。午後2時40分ごろゴールのコンフォモール内灘に次々と到着した。

ずぶぬれになって完走を果たした出場者はゴール後、握手や抱擁で互いの健闘をたたえ合い、来年の再会を約束した。

受付や誘導で活躍

◇…大会では、プルデンシャル生命保険金沢支社の社員がボランティアスタッフとして運営に協力した。写真。

最終日は社員19人がゴールで受付係や誘導係などとして活躍し、出場者に「お疲れさまです。完走おめでとう」と声を掛け、完走証を手渡した。このほかの社員13人が家族とともに出場し、さわやかな汗を流した。

湧き水配り励ます

◇…氷見市三尾と宝達志水町の県境では、同市の速川児童クラブの児童と父母約50人が、出場者に地元の湧き水とあめを配り、激励した。

昼前から選手が続々と到着すると、3～6年生が「頑張れ」と声を掛けてコップを手渡した。16回目の出場となる関義男さん（70）＝東京都荒川区＝は「ここに来るとほっとする」と児童の出迎えに感謝した。

雨の中を走り抜き、ゴールした出場者　＝内灘町のコンフォモール内灘

完走し、笑顔で記念撮影に臨む大久保博史さん（前列左から2番目）と司恵さん（前列左端）ら出場者

震災のように試練の雨だが…

「思い出できた」

被災地・福島の大久保さん夫婦

東日本大震災の被災地の一つである福島県いわき市で生活しているいわき市の大久保博史さん（52）、司恵さん（47）夫婦はチャンピオンコースに参加し、見事完走した。ゴール後に顔を合わせた5人は振る舞われた豚汁を味わいながら「今年はなかなかはきつかった」「これだけの雨は久々やね」などと大会を振り返り、互いの完走をたたえた。

5人は早くも来年の大会へ意欲十分で、高峯さんは「やっぱりツール・ド・のとは楽しい。また完走したい」と笑顔を見せた。

東京都出身の博史さんと北海道出身の司恵さんは仕事の都合で2009（平成21）年からいわき市に住み始め、戸惑ったが、2人ともた。大地震が発生したペースを崩さずゴール3月11日、互いの安否はすぐに確認することができたが、自宅は家財道具が散乱。物資不足や東京電力福島第1原発の事故の影響もあり、一時は東京に避難した。今も不安を抱え、地の一つである福島県いわき市で生活している。

震災のため、夫婦共通の趣味である自転車を楽しむことができない日が続いたが、能登の美しい風景や優しい人たちに触れ、元気を念撮影した2人は「雨もらいたいと2人そろって大会に出場することを決め、5月中旬からまた練習を再開。博史さんが11度目、司恵さんは4度目の出場を果たした。

初日が雨、2日目は晴れ、3日目に再び雨と天気が変わる天候に戸惑ったが、2人ともペースを崩さずゴールにたどり着いた。司恵さんは「雨の中でも応援してくれる人がいて励みになった」と話し、博史さんは「来年もまた必ず参加する」と力を込めた。

充実の3日間412キロ

「皆勤」5人 連続出場更新

23大会連続出場を果たした（左から）柏木さん、北出さん、高峯さん、川端さん、古川さん

第1回大会から毎年出場を続けている5人は今大会でも奮闘し、3日間を走り抜いた。能登路を熟知する5人は目まぐるしく変わる天候を物ともせずに力強くペダルをこぎ、ゴールに到達した。

連続出場の記録を更新したのは川端明さん（63）＝内灘町＝、柏木真明さん（57）＝群馬県安中市＝、北出裕一さん（44）＝金沢市＝、古川博人さん（48）＝白山市＝、高峯朗さん（52）＝輪島市＝。ペースはそれぞれ異なったが、ゴール後に顔を合わせた5人は振る舞われた豚汁を味わいながら「今年はなかなかはきつかった」「これだけの雨は久々やね」などと大会を振り返り、互いの完走をたたえた。

5人は早くも来年の大会へ意欲十分で、高峯さんは「やっぱりツール・ド・のとは楽しい。また完走したい」と笑顔を見せた。

「やっぱり楽しい」

感謝

第23回「ツール・ド・のと400」は3日間の日程を無事終了しました。沿道の皆さまのご声援ならびに関係各位のご協力に深く感謝いたします。

ツール・ド・のと400実行委員会
北國新聞社

近藤議員が長男と

◇…最終日の一日コースでは、近藤和也衆院議員が長男の天栄君（11）と銀輪を連ね、汗を流した。昨年に続き出場した近藤氏は「美しい風景などを親子で満喫できた」などと感想を語った。